

の満足度を得た。今後経年観察して、ニューロマスキュラーコンセプトにしたがって咬合再構築した本症例とQOLを含めたアンチエイジングの関係を調査したいと考えている。

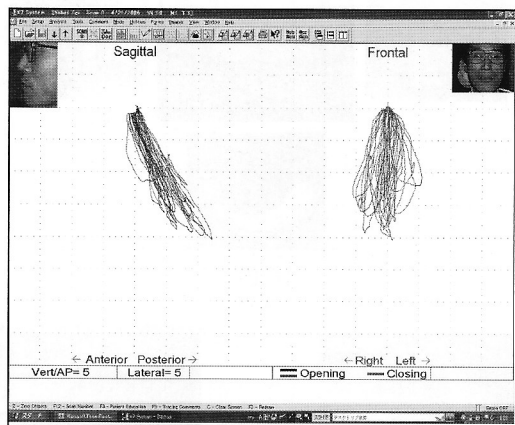


図 13.

文 献

- 1) 山下敦, 矢谷博文, 窪木拓男: 最新生理咬合学と顎関節症の治療. クインテッセンス出版, 東京, p 28-39, 1993
- 2) 池田正人, 高松尚史: ニューロマスキュラーコンセプトの基礎と臨床 Volume 1, Kyusyu Kinesio Club Textbook 編集委員会, p57, 2006.